

令和2年6月23日

学校法人三幸学園
仙台ウェディングアンドブライダル専門学校
校長 水口 俊彦 殿

学校関係者評価委員会
委員長 宮下 有裕

学校関係者評価委員会実施報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 宮下 有裕 (株式会社共立メンテナンス 寮事業本部 仙台支店支店長)
- ② 加藤 竜次 (株式会社カーム 代表取締役)
- ③ 丹野 浩幸 (有限会社アトランティス 代表取締役)
- ④ 早坂 彩 (第2期卒業生 現 仙台ビューティーアート専門学校)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和2年6月18日(会場 仙台ウェディングアンドブライダル専門学校 2F サロン)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2019年度 学校法人 三幸学園 仙台ウェディングアンドブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 岸本 拓也

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 宮下 有裕

1. 学校の教育目標

教育理念：技能と心の調和

人材育成方針：素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで社会に貢献する人材を育成する。また、最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo.1のプランナー・コーディネーターを育成する。

教育目標：素直で明るく自ら考えて動ける力を身につける。

コミュニケーション能力が高く、お客様の喜びを自分の喜びとして考えられる人間性を育てる。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「徹底」をスローガンに、担任を中心に全教員で、生徒に学校へ来ることの目的意識を持たせ、充実感を得られるような指導環境を整える。そして、さらなる精皆勤率の向上、検定合格率の向上、退学者数の減少を目指す。

○行事会議の実施：行事会議を実施することで、行事に向けた授業の内容を関係教員が確認及び目あわせを行う。それにより、行事の目的・ゴールを共通認識し、お互いが授業の進捗を確認しながら進められるようにする。

○夢のスケッチブック継続：目標を具体的に設定し、実行計画を立て日誌で振り返っていく「原田メソッド」の教育手法を取り入れたワークブックを各生徒が所有し、実践していく。授業と連動させ、振り返りが可能な設定とする。

○アクティブラーニング浸透：生徒が授業を受動的に受けるのではなく、能動的学習ができるような授業展開

○教育の体系化：各行事や教育内容を体系化し、教育効果の明確化。また、学園の教育特徴を明文化した「あきらめない教育(冊子)」を制作し、全教員へ配布・理念と実践の浸透を図る。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・学校の理念・目的・育成人材像や教育目標、特色・将来構想はオープンキャンパスや入学前説明会で周知する機会を設けているが、その浸透具合までは把握できていない。また将来構想は、社会のニーズによって変わるものでもあるため、社会ニーズの把握に努め、変化させていく必要がある。

② 今後の改善方策

・入学後においてもホームルームやオリエンテーション、入学前保護者会の中で機会を設けて浸透させる。
また、口頭だけでなくポスター掲示などの視覚に訴えた浸透を図る。

③ 特記事項

- ・入学前説明会の開催
- ・年2回保護者の方へ通知表及び学事日程の送付
- ・入学前3日間のオリエンテーション実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・情報システム化等による業務の効率化
- ・教育活動の情報公開

② 今後の改善方策

- ・情報伝達アプリ「Sanko gate」を利用した情報伝達の効率化推進
- ・教育活動や教育成果をホームページに積極的に情報公開

③ 特記事項

- ・学生管理システム(Info clipper)にて、応募者情報及び学生情報を管理している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

質問:劇的に時代が変わっている中で学校が果たす役割とはどのようなものだと思うか。

【宮下委員】

- ・学校の雰囲気は良い印象。
- ・挨拶等、当たり前事が出来るよう教育していくことが学校として果たす役割
- ・サービス業においては、人と接する中で「気づき」が出来る人材の育成が求められる。
- ⇒(例)アイコンタクトや仕草からお客様が求めていることは何かを読み取れる力
- ・世の中がデジタルの時代になっている(画面上でのやり取りが増えた)中で、サービス業は対面での接客がメイン
- ⇒協調性が欠けてきていると言われている中、「気づき」の能力が高められる点をもっとアピールしても良いのでは

【加藤委員】

- ・コロナウイルスの影響により、オンラインでの対話や仕事の進め方等が広まり、通常の運用になりつつある。
- ・オンラインでの学びを活用して、学び方の幅を広げても良いのでは
- ⇒(例)登校せずに遠隔で学べる、学校の中で自分の好きな時間に学べる、施設を利用した実践授業が出来る
- ・コロナウイルスの影響で社会情勢が落ち込んでいる中、生徒が未来に飛び立てる勇気や元気を与える役割を学

校が担って欲しい

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・知識や技能などを修得するための研修は一部の教員に対して実施されることが多い。より多くの教員が研修を受けられる機会の提供が必要。また、技能系はメイクやヘアメイク、ネイル、スタイリングなど多岐にわたるため、それぞれの研修を行うことが望ましい。

② 今後の改善方策

・授業の手合せや関係する教員間での打ち合わせの回数を増やす。その際に先端的な技能を持つ企業の方にもお越しいただき、手ほどきを受ける。

・生徒向けの企業講話に教員も参加させることで能力開発を行う。

③ 特記事項

- ・新人担任へ担任指導者を配置
- ・アクティブラーニングの推進と実施方法の提供

④学校関係者評価委員会コメント

質問:人材育成で気を付けていることは？また、卒業生はどんな先生が良かったか？

【丹野委員】

- ・新人研修時に、技術力はあるがコミュニケーション能力が足りていない事が気になっている。資料作成のスキルに問題はないが、お客様の要望に合った資料を作成する力は乏しい。
- ・対面でコミュニケーションを取らないと商品を作り出せない業界の為、コミュニケーション能力が必須。
- ・悩んでいるが考えていない新人が見受けられる。考える癖を付けるよう教育している。

【早坂委員】

- ・技術を教わる際に、質問しやすい先生が居ると安心する
- ・生徒の些細な変化にも気づき、声を掛けてくれる先生が居て欲しい

【加藤委員】

- ・教育する側がジェネレーションギャップを感じるようになってきた。
- ⇒相互に歩み寄る事が大切。一方通行にならない事に気を付けている。
- ・口頭での指摘と文面での指摘(メール、LINE等)の受け取り方は変わってくる。
- ・ネットワーク上で繋がったコミュニケーションだと感情が分かりづらい。
- ・相手はどう思うのか、気を遣い、考えてコミュニケーションを取る必要がある。

【宮下委員】

- ・OJT教育制度を取り入れている。年の近い先輩が後輩の指導を行う。
- ・半年間の現場研修でサービスを学ぶ。一般常識も身に付ける。
- ・育ってきた環境が異なり、時代も変わってきた。指導者側の感覚を新人に合わせていくことも必要。
- ・コンプライアンスが厳しくなってきた為、指導・教育方法を変化させた。
- ⇒頭から叱る指導をしない、自分でやる気を出させる、考えさせる教育を行う。
- ・人によって伝え方を変える。目的は同じだが、ゴールに辿り着くまでの過程を変えている。

質問:現場目線の求める力とはどのような力ですか。

【加藤委員】

- ・一番は稼ぐ力を求めたい。そのために必要な力はコミュニケーション能力、創造力。
- ⇒人の立場に立てる人を最も求めたい。
- ・接客業＝人から感謝されることで対価を頂ける
- ⇒感謝されるためには、何をしたら良いか。目標を立て、成果を振り返ることを毎日出来るようになれば、感謝を引き出す力を身に付けられる。
- ・感謝を引き出す力を身に付けることで、人の立場に立てる人材になる。
- ・感謝されるためにどうするべきか、考えられる力を学校として育成して欲しい。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業生の社会的な活躍は比較的關係性の築けている就職先に限って把握ができていないが、それ以外はできていない。
- ・卒業後のキャリア形成について把握ができておらず、適切なキャリア支援ができていない。

② 今後の改善方策

- ・卒業前に卒業後のキャリア支援を行っていることを周知
- ・同窓会組織を利用した卒業生ネットワークの強化
- ・就職先への訪問を強化し、卒業生の状況を情報収集

③ 特記事項

就職率:100%(就職内定者 109 名/就職希望者 109 名中)(昨年度 100.0%)

退学率:2.4%(昨年度 2.8%)

ドレスコーディネーター検定:96.6%(昨年度 99.2%)

ABC検定:89.3%(昨年度 89.5%)

メイクアップベーシック:95.9%(昨年度 91.6%)

ブライダルメイク:84.9%(昨年度 83%)

ブライダルプランナー検定 1 級:91.5%(昨年度 88.5%)

パーソナルカラーコーディネート検定:92.2%(昨年度 96.2%)

JNA ジェルネイリスト技能検定試験 初級:88.0%(昨年度 80.4%)

④ 学校関係者評価委員会コメント

質問:現場での離職率の対策などあれば教えてください。また、卒業生は周りの同級生の現状を教えてください。

【早坂委員】

- ・2 期生では、退職した後にブライダル以外の道に進んでいる卒業生が多い。
- ・退学者の多くは目標喪失が理由だった。
- ・入学当時は 40 名近く在籍していたが、卒業時点では 10 名程退学してしまった。

【宮下委員】

- ・ブライダルに夢を持って入学した生徒が諦めて退学してしまう前に、他の業界にチャレンジできる研修制度・チャンスがあってはどうか。
- ・秘密主義を守った上でメンタルケアができる場所があると良い。

【岸本副校長】

- ・ブライダルの夢を諦めても本校で学ぶカリキュラムは、どの業界・就職先でも役に立つ。
- ・他学園では、退学防止の策として別のキャリアを選択式で学べる学科がある。
- ➡結果として、退学率は減少し、自身の夢を見直している。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・経済的側面に対する支援体制は奨学金や学費ローンなどの貸与型での支援はできているが、給付型では特待生制度のみである。
- ・社会人が働きながら学ぶ仕組みがない。

② 今後の改善方策

- ・特待生制度以外での給付型修学支援の実施。
- ・単位制への完全移行はしたが、夜間や土日にスクーリングを行う科目履修生を受け入れられる仕組みを構築する。

③ 特記事項

- ・スクールカウンセラーの配置
- ・Uターン就職者へ交通費補助
- ・高等教育無償化制度対象校認定

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・【早坂委員・大野委員】
- ・支援制度があるのは知らなかった。
- ・今後、SNS等での情報拡散を検討していく。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・ブライダルヘアメイクアンドドレス科のインターンシップ先の確保が難しい
- ・防災訓練が出来ていない

② 今後の改善方策

- ・技能職以外の実習先の確保と生徒への動機付け
- ・ブライダルヘアメイクアンドドレス科の実習先開拓
- ・防災訓練の実施(今年度前期中に実施予定。日程再調整中)

③ 特記事項

- ・校舎設備の保守管理は定期的に行われており、安全且つ適切に管理できている
- ・海外研修制度あり

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ブライダル業界に興味のある学生の確保。特に美容系の打ち出し強化。
- ・他校、大学との差別化

② 今後の改善方策

- ・業界の理解が深まり、興味を喚起できるホームページや媒体物の作成。
- ・来校でのオープンキャンパスだけでなくオンラインでのオープンキャンパスの開催。

③ 特記事項

- ・学費は地域性や他校の水準も把握した上で決定している
- ・オープンキャンパスの開催、高校訪問、進路相談会の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・地域貢献活動が積極的に行えていない。

② 今後の改善方策

・関係企業や自治体との連携を模索し、新たな教育活動の場を設ける。

③ 特記事項

- ・地域ボランティア(学童保育イベント時のヘアメイク)参加
- ・本校舎内での一般のお客様本物挙式開催

④ 学校関係者評価委員会コメント

【早坂委員】

今後は七五三やマタニティペイントなどをやってみてはどうか

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・留学生の卒業後の進路先確保が困難
- ・国際交流に対する知識不足
- ・留学生に対する受け入れ体制の柔軟性不足

② 今後の改善方策

- ・留学生に対する勉強会の実施
- ・留学生奨学金、学生支援の強化
- ・日本語学校との情報交換

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

人材育成方針や具体的な目標及び計画は立てられているが、生徒やその保護者、地域への浸透は今後も課題である。

社会のニーズを踏まえた上で、人材育成像に沿った人材を輩出するためにも、設備の拡充及び教職員の教育

はさらに強化していく必要がある。また、関係企業の意見を聞き、企業との連携を深め、社会に求められる専門学校を今後も目指していく。

ブライダル業界に就業を考える生徒の確保・開拓も課題であると考え。そのために、業界の魅力を発信し訴求する専門学校であることも目指す。

自己評価の結果、概ね健全な学校経営及び運営ができていると言える。ただし、細部を正しく見直し、今回の課題を克服できるよう更なる経営努力が必要である。